

科目名		建築計画 I			
担当教員		木戸 久美子		実務授業の有無	
対象学科		建築大工科	対象学年		1
必修・選択		必修	開講時期		前期
		単位数		時間数	
		16時間			
授業概要、目的、授業の進め方		建築物の基本的な設計の考え方、計画の進め方を座学や事例を通して学ぶ。 1. 建築計画に必要な、単位、寸法、生活にもとづいた設計の考え方の重要性を学ぶ。 2. 条件と規制に則した建築計画の進め方の基本を理解する。 3. 講義→小テスト→解答→解説を繰り返すことで重要性を理解する。			
学習目標 (到達目標)		建築物の事例から、平面計画を学び、建築設計に活かせる知識を習得する。また、健育士2級の筆記試験範囲にあたる科目のため、合格点に達する習熟度を目標とする。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		図説 やさしい建築計画 (学芸出版社)			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	建築計画の基本知識－1 ①単位と寸法 ・建築で使用される長さ及び面積の単位			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
2	建築計画の基本知識－2 ①人体寸法と動作寸法 ・人間工学に基づく人体寸法と動作寸法			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
3	建築計画の基本知識－3 ①建築計画の進め方 ・モジュールとモデューラーコーディネーション ②建築計画の進め方 ・機能計画（ゾーニング・グルーピング） ・動線計画、規模計画 ・構造計画、設備計画、避難・防災計画			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習	
5	各部および単位空間の計画－1 ①各部の計画：各部の種類・寸法計画について ・扉・窓・屋根の種類、階段・スロープの寸法と勾配			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
6	各部および単位空間の計画－2 ①単位空間の計画 ・廊下・便所・浴室、各室の寸法計画			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
7	小テスト①			項目1～6から抜粋し小テストで理解度の確認。 解答→解説を行う。 準備学習：項目1～6を教科書、プリントなどで復習	
8	高齢者・障害者に配慮した建築計画－1 ①ユニバーサルデザインと建築計画 ・ノーマライゼーションの考え方とユニバーサルデザイン			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
9	高齢者・障害者に配慮した建築計画－2 ①バリアフリー計画の要点 ・車イス利用の通行空間・設備の必要寸法			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
10	地球環境に配慮した建築計画 ①持続可能性、環境に配慮した計画の概念			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
11	小テスト②			項目8～10から抜粋し小テストで理解度の確認。 解答→解説を行う。 準備学習：項目8～10を教科書、プリントなどで復習	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
期末試験・小テスト・授業態度を総合的に評価します。  期末試験70%、小テスト20%、授業態度10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。				建築設計に必要な知識として建築基礎知識を理解した上で、設計への見聞を広げる。また定期的の小テストを行い習得状況の確認する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、正解率の低い回答については、十分な解説を行う。	
実務経験教員の経歴					

科目名		建築計画 I			
担当教員	木戸 久美子	実務授業の有無			
対象学科	建築大工科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築物の基本的な設計の考え方、計画の進め方を座学や事例を通して学ぶ。 1. 建築計画に必要な、単位、寸法、生活にもとづいた設計の考え方の重要性を学ぶ。 2. 条件と規制に則した建築計画の進め方の基本を理解する。 3. 講義→小テスト→解答→解説を繰り返すことで重要性を理解する。				
学習目標 (到達目標)	建築物の事例から、平面計画を学び、建築設計に活かせる知識を習得する。また、健育士2級の筆記試験範囲にあたる科目のため、合格点に達する習熟度を目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①図説 やさしい建築計画 (学芸出版社)				
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	集合住宅の分類 ①住棟タイプの特徴	方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習			
2	集合住宅の配置 ①住戸計画・共用部分	方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習			
3	①住宅地計画と近隣住区理論	方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
4	小テスト③	項目1～4から抜粋し小テストで理解度の確認。 解答→解説を行う。 準備学習：項目8～10を教科書、プリントなどで復習			
5	高齢者・障害者に配慮した建築計画－1 ①ノーマライゼーションの考え方 ②ユニバーサルデザインについて	方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
6	高齢者・障害者に配慮した建築計画－2 ①バリアフリー計画の要点 ②車イス利用の通行空間・ ③設備の必要寸法	方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
7	地球環境に配慮した建築計画 ①持続可能性、環境に配慮した計画の概念	方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
8	小テスト④	項目5～7から抜粋し小テストで理解度の確認。 解答→解説を行う。 準備学習：項目8～10を教科書、プリントなどで復習			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
期末試験・小テスト・授業態度を総合的に評価します。  期末試験70%、小テスト20%、授業態度10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		建築設計に必要な知識として建築基礎知識を理解した上で、設計への見聞を広げる。また定期的に小テストを行い習得状況の確認する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、正解率の低い回答については、十分な解説を行う。			
実務経験教員の経歴					

科目名		建築計画Ⅱ			
担当教員		熊谷 貴子		実務授業の有無	○
対象学科	建築大工科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	<p>・非住宅建築物設計の建築計画、考え方、計画の進め方を座学や事例を通して学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 建築計画に必要な、単位、寸法、生活にもとづいた設計の考え方の重要性を学ぶ。</li> <li>2. 条件と規制に則した建築計画の進め方の基本を理解する。</li> <li>3. 講義→小テスト→解答→解説を繰り返すことで重要性を理解する。</li> </ol>				
学習目標 (到達目標)	<p>・非住宅建築物の、建築計画（規模計画・動線計画・平面計画・断面計画・設備計画・用語）を学び建築物の事例から建築設計に活かせる知識を習得する。また、健育士2級の筆記試験範囲にあたる科目のため、合格点に達する習熟度を目標とする。</p>				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	図説 やさしい建築計画（学芸出版） ・補足資料				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
	建築計画各論				
1	小学校・中学校 ①学校の運営方式と構成、 ②配置・動線計画と必要諸室			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
2	幼稚園・保育所 ①幼児乳児に配慮した施設計画と各部計画			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
3	小テスト①			項目1～3から抜粋し小テストで理解度の確認。 解答→解説を行う。 準備学習：項目8～10を教科書、プリントなどで復習	
4	図書館 ①必要諸室の配置計画と閲覧・ ②書架形式と用語			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習	
5	博物館・美術館 ①構成と動線計画、 ②巡回形式、 ③照明計画と用語			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習	
6	小テスト②			項目1～3から抜粋し小テストで理解度の確認。 解答→解説を行う。 準備学習：項目8～10を教科書、プリントなどで復習	
7	劇場・映画館 ①種類と構成・動線計画、 ②舞台形式、客席・音響計画			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習	
8	事務所 ①高層ビルの基本計画、 ②レイアウト計画、用語			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習	
9	小テスト③			項目1～3から抜粋し小テストで理解度の確認。 解答→解説を行う。 準備学習：項目8～10を教科書、プリントなどで復習	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
小テスト・期末試験・授業態度・映像レポを総合して評価します。  小テスト30%、授業態度30%、期末試験30% 映像レポート10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。				建築設計に必要な知識として建築基礎知識を理解した上で、設計への見聞を広げる。また定期的に小テストを行い習得状況の確認する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、正解率の低い回答については、十分な解説を行う。	
<b>実務経験教員の経歴</b> 設計業務、インテリアコーディネーターとして8年実務に携わる					

科目名		建築計画Ⅱ			
担当教員	熊谷 貴子	実務授業の有無	○		
対象学科	建築大工科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	<p>・非住宅建築物設計の建築計画、考え方、計画の進め方を座学や事例を通して学ぶ。</p> <p>1. 建築計画に必要な、単位、寸法、生活にもとづいた設計の考え方の重要性を学ぶ。</p> <p>2. 条件と規制に則した建築計画の進め方の基本を理解する。</p> <p>3. 講義→小テスト→解答→解説を繰り返すことで重要性を理解する。</p>				
学習目標 (到達目標)	<p>・非住宅建築物の、建築計画（規模計画・動線計画・平面計画・断面計画・設備計画・用語）を学び建築物の事例から建築設計に活かせる知識を習得する。また、健育士2級の筆記試験範囲にあたる科目のため、合格点に達する習熟度を目標とする。</p>				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	<p>①図説 やさしい建築計画（学芸出版） ・ 補足資料</p>				
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	事務所の計画 ①事務所の用途と種類、 ②構成と動線、 ③規模計画、配置平面計画、各室計画、 ④関連用語、実例を学ぶ	<p>方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～④を理解する 準備学習：教科書①の予習</p>			
2	ホテルの計画 ①宿泊施設の構成と動線 ②規模計画、配置平面、平面計画、各室計画 ③関連用語、実例	<p>方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～④を理解する 準備学習：教科書①の予習</p>			
3	病院・診療所の計画 ①病院建築の構成と動線 ②規模計画、配置平面計画、各室計画 ③関連用語、実例	<p>方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①②を理解する 準備学習：教科書①の予習</p>			
4	小テスト③	<p>項目1～3から抜粋し小テストで理解度の確認。 解答→解説を行う。 準備学習：項目8～10を教科書、プリントなどで復習</p>			
5	商業建築の計画 ①百貨店・スーパーマーケット・一般店舗の用途と種類 ②構成と動線、規模計画、配置平面計画、各室計画 ③関連用語、実例	<p>方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～④を理解する 準備学習：教科書①の予習</p>			
6	各種建築物の計画（高齢者福祉施設） ①老人福祉施設の構成と動線、 ②規模計画、配置計画、平面計画、各室計画、 ③関連用語、実例	<p>方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～④を理解する 準備学習：教科書①の予習</p>			
7	各種建築物の計画（駐車・駐輪施設） ①駐車場・駐輪場の用途と種類、 ②構成と動線、規模計画、配置、平面計画、各室計画、 ③関連用語、実例	<p>方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～④を理解する 準備学習：教科書①の予習</p>			
8	各種建築物の計画（スポーツ施設） ①スポーツ施設の構成と動線、 ②規模計画、配置計画、平面計画、各室計画、 ③関連用語、実例	<p>方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～④を理解する 準備学習：教科書①の予習</p>			
9	各種建築物の計画（コミュニティ施設・市庁舎） ①コミュニティ施設の構成と動線、 ②規模計画、配置計画、平面計画、各室計画、 ③関連用語、実例	<p>方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～④を理解する 準備学習：教科書①の予習</p>			
10	各種建築物の計画（工場・空港） ①工場・倉庫の用途と種類、構成と動線、 ②規模計画、配置平面、計画、各室計画、 ③関連用語、実例	<p>方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～④を理解する 準備学習：教科書①の予習</p>			
11	小テスト④	<p>項目5～10から抜粋し小テストで理解度の確認。 解答→解説を行う。 準備学習：項目8～10を教科書、プリントなどで復習</p>			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
<p>小テスト・期末試験・授業態度を総合して評価します。</p> <p>期末試験70%、小テスト20%、授業態度10%</p> <p>成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。</p>		<p>建築設計に必要な知識として建築基礎知識を理解した上で、設計への見聞を広げる。また定期的の小テストを行い習得状況の確認する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、正解率の低い回答については、十分な解説を行う。</p>			
<p><b>実務経験教員の経歴</b> 設計業務、インテリアコーディネーターとして8年実務に携わる</p>					